

半歌仙「日の匂い」の巻

捌 勝又 丘女

夏衣箆筒にしまう日の匂い

勝又 丘女

帰省の子等の駆けまわる庭

賀茂博美

甲子園上がる歓声テレビにて

佐野彰一

未来を創る郷土（くに）の活力

窪田浩晃

満月の揺れる水面に釣り小舟

鴻巣洋子

忘れ団扇に墨書きの詩

丘女

金毘羅寺磴で拾いし桐一葉

博美

旅日記繰る若きあの頃

彰一

雑踏に君の面影追い求め

浩晃

触れ合う肌の熱き温もり

博美

勝負飯ねぎとろ温玉いくら丼

丘女

ファッショナブルな山ガール行く

浩晃

熱爛で語る時勢はウクライナ

彰一

月冴え冴えと獣道刺し

丘女

北条の波乱万丈戦国史

博美

幕間に響く太鼓竜笛

彰一

村辻の人の目奪う枝垂れ花

浩晃

仔猫の声に振り返る坂

博美

首尾 令和四年八月十一日

桃園集会所にて